

庁議の概要

開催日 平成 21 年 12 月 21 日 (月)

◎項 目

- 1 緊急雇用対策について【商工労働部】
- 2 公共事業等事務費の会計実地検査結果等について【会計管理局】
- 3 各部局等の動向について【各部局等】
- 4 その他

◎内 容

1 緊急雇用対策について【商工労働部】

商工労働部から、緊急雇用対策の実施状況等について説明を行った。

【概要説明】

- ・ふるさと雇用再生特別基金では 66 億円を積んでおり、3 年間の事業計画が 53 億 4 千万程度である。残りの 12 億 6 千万は平成 22 年度当初予算で全額執行をしたいと思っているので、特に産業振興計画関係などで前倒しをして雇用機会を増やせるよう協力をお願いしたい。
- ・緊急雇用創出臨時特例基金では 50 億 3 千万円を積んでおり、平成 23 年度までを見通すと計画ベースの事業費はこの額を超えている。市町村とは 1 対 1 での配分となるため、県の配分額は 25 億 1,500 万円であり、約 6 億 5 千万円の不足である。今後、見直しを行うとともに、優先順位を考えて執行していくこととなる。
- ・あったか高知・雇用創出プランでは平成 21 年度からの 3 年間で 6,500 人の雇用創出を目標としているが、12 月段階で 2,707 人を雇用予定である。ほかに、募集中のものとこれからハローワークに出ていくものがある。
- ・国の補正予算案では、重点分野雇用創造事業が創設されることとなっている。重点分野雇用創出事業と地域人材育成事業から成り、対象分野がそれぞれ 6 分野（地域人材育成事業は 4 分野まで追加設定可能）とのことであるが、細かい要件については確認をする必要があると考えている。

2 公共事業等事務費の会計実地検査結果等について【会計管理局】

会計管理局から、公共事業等事務費の会計実地検査の結果等について説明した後、意見交換を行った。

【概要説明】

- ・昨年度から、会計検査院が公共事業事務費の特別検査をしている。
- ・本県では、多くの道府県で出ている預け金などの不正経理はなかったものの、一部不適正な経理が指摘されたため、関連部局では検査対象外の年度や出先機関でも調査を進めてきた。先月、会計検査院から正式な検査結果が公表され、追加調査を合わせた不適正経理の額と国等への返還額が固まったため、県議会に報告し、所要の補正予算議案の議決をいただいた。
- ・不適正な経理の原因としては、国庫補助事業事務費に関する認識不足が最たるものである。今後、関係部局では国の指導も受けつつマニュアルを作成し職員に周知することとしている。また、会計管理局ではこれまで以上に会計事務研修等を行い職員の事務能力の向上を図るとともに、所属内での連携を深めチェック体制の向上に努めていきたい。

【主な意見】

- ・会計検査を受検するための事務費は国庫補助の対象になるかならないかを、会計検査院は見解を明らかにしているのか。
→していないが、(直接の国庫補助事業ではないので) 本来ならない。
- ・直接国庫補助事業に必要な経費に限られるとのことだが、例えば、国の用務で東京に出張して、ついでに県の仕事をしてくるようなものも対象にならないのか。
→当初、会計検査院は対象にならないとの見解だったが、国と県の業務を合わせて行うという実際に即したことであるので、会計検査院も一定の理解を示してくれている。ただ、予算を組む際に、襟を正さなければならないことも事実である。

3 各部局等の動向について【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布の上、各部局等より概要説明を行った。

4 その他

【主な意見】

(知事)

- ・この1年間、産業振興計画の推進をはじめ、様々な課題について、本当に前向きに積極的に取り組んでもらい、いろんな物事が先に向けて進んできたと思っている。
- ・部局長のみなさんが各部局で、本当に積極的なリーダーシップを発揮してもらったおかげであるし、職員のみなさんにも多大なる努力をしてもらったと思っている。
- ・来る年は、非常に忙しい年になるだろうと思っているが、ある意味、チャンスにあふれた年でもある。そのチャンスを生かし切ってほしいと思うが、我々としてはこのチャンスを縦横に生かし切れないと大変なことになってしまうという危機感も持ちながら取り組みを進めていく、そのような年になっていくのではないかと思う。
- ・今年行ってきたことは、来年の仕事の基礎になっていこうと考えている。来る年も頑張って仕事をほしいし、また一緒に頑張ってもらいたいと思う。今年一年お疲れさまでした。